自己点検 評価報告

2024年

京都大学人文科学研究所



2024年6月末現在

I 研究所の概要

I 研究所の概要

目的

多民族・多文化間の調和ある共生に資する知見を人文科学の分野から発信している。2010年度より共同利用・共同研究拠点の「人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点」として世界的視野から複数文化の生成、変動、相互交渉等を研究し、地球社会の調和ある共存に資する学術的知見を提供している。

組織

5部門(文化研究創生、文化生成、文化連関、文化表象、文化構成)

2附属研究施設(人文情報学創新センター、現代中国研究センター)

研究体制

多様な関心に基づく個人研究 高頻度で開催されるハイレベルの共同研究 公募型13件、公募型以外22件 (R5年度)

重点プロジェクト

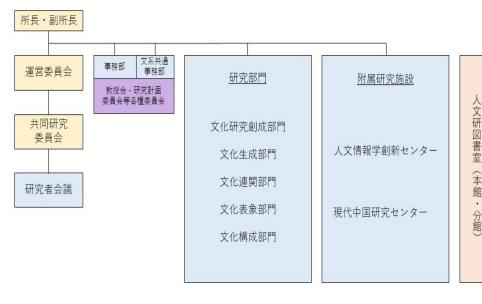
「生きるための人文学」研究拠点形成 「みやこの学術資源」研究・活用

資料

図書 約68万冊、雑誌 約1万730種

他に考古美術資料約12万点、地理民俗資料(華北交通写真資料)約4万点、

文革期刊行物資料115箱、映画・演劇資料約1万5千点



Ⅱ 活動状況

1. 共同研究 (1)共同研究の募集・種類

①課題公募班(A班): 課題自体を公募(班長は所外の研究者)

一般:原則3年、年10回前後の研究会を開催

萌芽:班長は45歳以下、研究会·公開シンポ ジウムの開催(年2回以上)

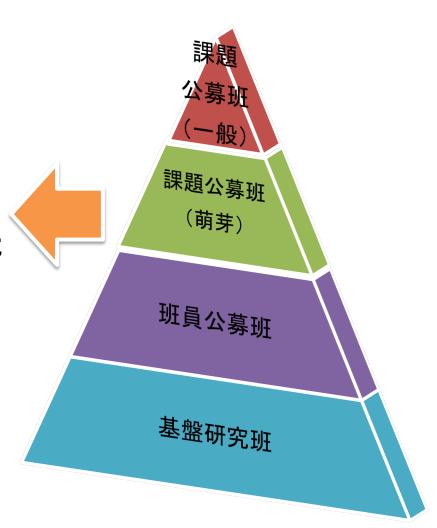
②班員公募班(B班):

課題は所内で選考し、班員を募集し、所内の研究者が班長を務める3~5年のビッグ・プロジェクト

③基盤研究班(C班):

B班と同じく隔週または毎週、研究会を開催

課題の性質に合わせた多様な研究班が存在、C班がA・B班の基礎研究・リサーチの役割を果たすなど、相互に連携を保つ



1. 共同研究 (2)共同研究の目的

世界的視座から文化の創成・接触・変容を研究

3つのコンセプト

テーマ1 文化基盤の形成

- ■「語りえぬもの」を語る行為とその思想表現に 関する学際的研究
- ■中国生活文化の思想史
- ■近代日本の宗教と文化
- ■中国社会経済制度の再定位
- ■秦漢法制史料の研究
- ■近現代日本の研究資源に関する基礎的研究
- ■東アジアの宗教美術と社会
- ■『玉燭宝典』研究
- ■隋唐石刻資料の研究
- ■東アジア伝統科学における自然と人間
- ■『広弘明集』に見る中国中世在家仏教

文化基盤 の形成

地球社会と 共存

接触と コンフリクト

テーマ2 接触とコンフリクト

- ■人物で見る第二次世界大戦
- ■インドにおける「循環的存在論」の形成
- ■中日の近代哲学・思想の交差とその実践
- ■チベットにおけるコミュニケーションツールの研究
- ■文化資源と文化運動
- ■交流と相克のユーラシア東方史
- ■「異端」の人文学
- ■情報と近現代中国

テーマ3 地球社会と共存

- ■「日本のアジア主義」再考
- ■社会運動と社会教育の関係史
- ■ポスト=ヒューマン時代の起点としてのフランス象徴主義
- ■家族と愛の研究
- ■古典中国語コーパスの応用研究
- ■東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究
- ■漢籍共同研究システムの構築
- ■アジアにおける宗教諸文化の越境的波及と 「地域」創出
- ■モノ・知識・環境
- ■生きる営みと環境問題
- ■高度経済成長期の生活史

赤字は課題公募班・一般

1. 共同研究 (3)方法論の伝統と継承

- 共同研究の「草分け」
- 設立以来の方法論である3つの柱を軸とした共同研究

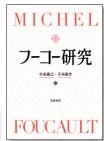
高木博志 編 『近代京都と文化:「伝統」 再構築』 2023年(令和5年)



桑原武夫 18世紀フランス研究 『ルソー研究』 1951年(昭和26年)



岩尾一史・池田 巧(編)『チ ベットの歴史と社会』上下、 2021年(令和3年)



学際的研究 学界セクショナリズム

の打破

小泉 義之・立木 康介 編『フーコー研究』 2021年(令和3年)

現地調查

: 水野清一 雲岡石窟調査 『雲岡石窟』中国語版 2014年(平成26年)-

2018年(平成30年)

雲岡石窟

原典の会読 吉川幸次郎 元代雑劇の研究 『元曲選釋』

1951-52年(昭和26-27年)

1. 共同研究 (4) 共同研究班の開催状況と班員構成

- ・ 32の共同研究班を組織
- 毎週または隔週で研究会を開催一延べ413回の研究会を開催
- 班員の半分以上が学外のメンバーで構成

(2023年度実績)

班員の構成

班員の所属	人数
所内	194
学内	120
学外	583
(大学院生)	(83)
合計	897

学外所属の内訳	人数
国立	145
公立	34
私立	243
他	161

班員の所内・学内・学外割合



開かれた共同研究拠点として活動

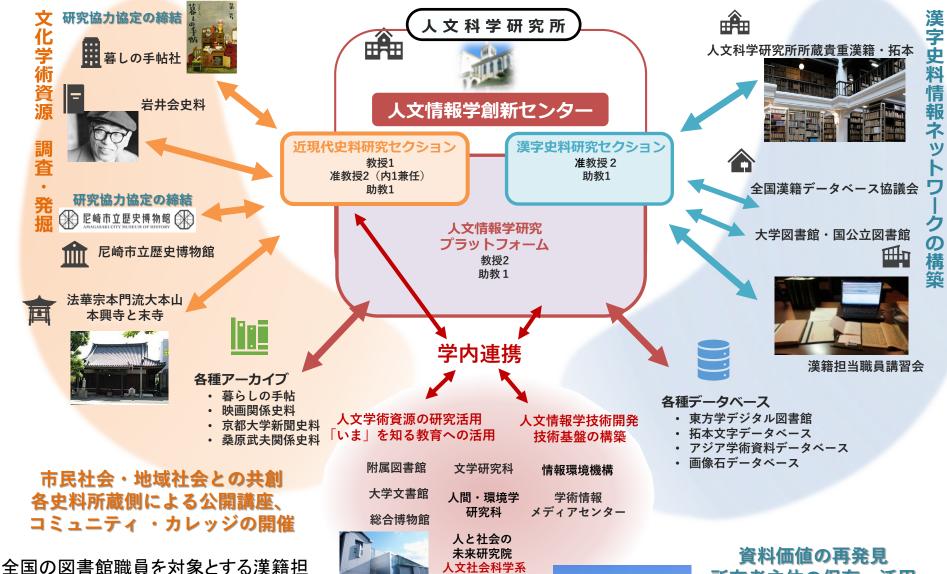
1. 共同研究 (5)共同研究班への参加状況(2023年度延べ人数)



413回開催した研究会の延べ参加者

区分	延べ人数								
京都大学	3,000人								
国立大学	972人								
公立大学	299人								
私立大学	1,615人	うち、 海外研究者	うち、 若手研究者	うち、 大学院生					
大学共同利用機関法人	77人	冲作则无怕	(35歳以下)	八寸 -196 <u>工</u>					
独立行政法人等	89人	1,472人	1,490人	1,149人					
民間機関	169人	1,7727	1,4307	1,1437					
外国機関	665人								
その他	224人								
合計	7,110人	(うち、女性研	开究者 2,442人)					

2. 共同利用 (1) 附属施設 人文情報学創新センター



所有者主体の保存・活用

連携のハブ

当職員講習会、一般の聴衆を対象とする

TOKYO漢籍SEMINARを毎年開催

2. 共同利用 (2) 附属施設 現代中国研究センター



人文学的・歴史学的パースペクティブから現代中国を分析

二つのアプローチに基づく研究班により総合的に現代中国を把握 政治史・文化史的アプローチ 社会史・経済史的アプローチ

中国語・英語による積極的発信 出版と国際会議開催

研究基盤整備

国際シンポジウム開催

現代中国研究センター 関連刊行物 現代中国情報資料集積基地(新聞・新編地方史・地図を収集)

現代中国共同研究室 (外国人・若手研究者が共同利用)









2. 共同利用 (3) 学術資源のデジタル発信

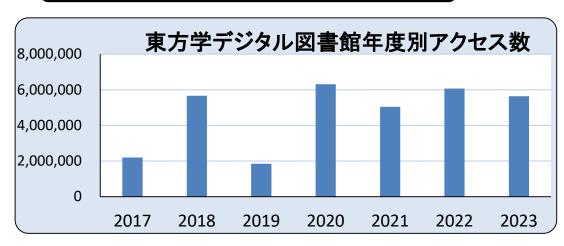
・データベースの利用状況 一日当たり利用件数 30万件

データベース名	アクセス数
京都大学人文科学研究所 所蔵石刻拓本資料 (拓本文字データベース)	67, 508, 455
全国漢籍データベース	37, 729, 981
東方学デジタル図書館	5, 635, 177
所蔵中国雑誌	79, 816
地図	23, 948

拓本文字データベース (2005年2月18日運用開始)



東方学デジタル図書館(2003年10月20日運用開始)

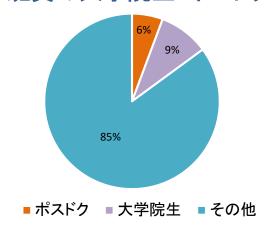


3. 共同研究を通じた人材育成

(1)大学院生、ポスドク研究者への参加を呼びかけ

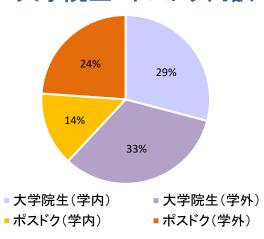
共同研究班員の構成(全体の約1割が大学院生、ポスドク)

班員の大学院生・ポスドク



院生・ポスドクの約6割が学外から参加

大学院生・ポスドク内訳



(2)日本学術振興会特別研究員や若手研究者の積極的受入れ

学振特別研究員	研修員	研究生	研究員	研究員 RA オフィス・アシスタント		合計
9	0	14	5	9	22	59

(2023年度実績)

4. 外国人研究者等の受入人数(2023年度)

招へい研究員	招へい 外国人学者	外国人 共同研究者	研修員	研究生	
6	13	10	0	13	

外国人研究者等出身国 中国、台湾、アメリカ、イギリス、イタリア など

5. 学術交流協定締結状況

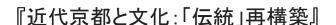
- ・フランス: フランス政治学財団(シアンス・ポ)、フランス国立極東学院、 国立高等研究実習院
- ·ドイツ:ミュンスター大学中国学·東アジア学研究所、ハンブルク大学アジア·アフリカ研究所
- ・アメリカ合衆国:ハーバード燕京研究所
- •韓国:東国大学校文化学術院、韓国全北大学韓国科学文明学研究所
- 中国:中国政法大学法律古籍研究所、華東政法大学法律史研究センター、 南京大学域外漢籍研究所
- ·台湾:中央研究院歴史語言研究所、中央研究院近代史研究所 中央研究院台湾史研究所、台湾大学文学院日本研究中心、台湾国家図書館

6. 共同研究でしか成し得ない研究成果

『フーコー研究』(岩波書店、2021年3月刊)

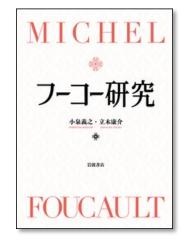
没後35年を経ていまもなお現代社会を理解するための重要な視角として参照されつづけている フランスの思想家ミシェル・フーコーを、科学・性・啓蒙・言語・文学・狂気・権力・真理・資本など 多角的な視点から再考する論文集。日本におけるフーコー研究の到達点にして、新たなる出発 点。





(思文閣出版 2023年刊)

雅で貴族的な「国風文化」や祇園の「もてなしの文化」で代表される京都イメージを相対 化するために、映画・美術・文学・民俗学・建築学など多様な視点から売春・芸能・差別・ 墓所といった広義の「文化」も視野に入れて近代京都論を再考する論文集。



『雲岡石窟』全20巻42冊

(日英語版:科学出版社東京·国書刊行会 2013~2017年)

(中国語版:科学出版社 2014~2018年)

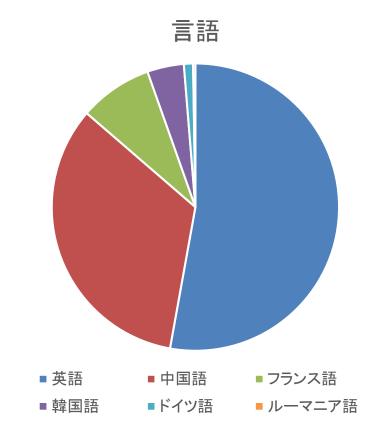
龍門と敦煌に並ぶ中国三大石窟の1つである雲岡石窟を包括的に調査した報告書。 中国社会科学院考古研究所との共同編集により既刊の16巻に4巻9冊を増補。



7. 国際著作物(著書・論文など)

毎年多数の成果:14年間で388件 英・中・仏・韓など多言語での発信





8. 外部資金 取得状況(2023年度) 金額単位:千円

	新学術領域研究 (研究領域提案型)		基盤研究S		***					挑戦的		
					州究S	基盤研究A		基盤研究B		基盤研究C		萌芽研究
	新規	規 継続 新規 継続		新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	
件 数						2	4	4	5	10		1
金額(千円)					12,800		20,200		14,200		1,6	00

	若手研究		ł	国際共同研究 研究活動 研究成界 カル マップ				促進経費	受託码	开究費	合	計
	新規	継続	新規	継続	新規	新規 継続		継続	新規	継続	新規	継続
件 数	4	1			1		4	1	1	1	19	20
金額(千円)	4,2	4,200		90	900		14,000		170	73,	070	

9. シンポジウム等の実施状況(2023年度)

研究成果の発信 人文研アカデミー

(1)研究者を対象とするもの

- ①シンポジウム・講演会 3件
- ②セミナー・ワークショップ等 3件 合計 8件(参加人数:254人)

(2)一般の方を対象とするもの

- ①シンポジウム・講演会 8件
- ②セミナー・公開講座等 3件
- ③その他 1件 合計 12件(参加人数:1,550人)

